

## 第34回卒業証書授与式 式辞

やわらかな春の日差しにつつまれ、新しい命の息吹を感じる、この春の佳き日に、第34回兵庫県立北摂三田高等学校 卒業証書授与式を、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、このように挙行できますことは、卒業生はもとより、教職員にとりましてもこの上ない喜びです。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

今回の卒業式に際しては、新型コロナウイルスの影響により、在校生の出席を少なくするとともに、プログラムを一部変更しております。晴れの日を、多くの人数で盛大に卒業生を送り出したいという思いからは、まことに心苦しいかぎりですが、何とぞご理解をお願いいたします。

さて、ただいま卒業証書を授与しました220名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

この北摂三田高校で過ごした年月は、皆さんにとってかけがえのない、また思い出深いものであったと思います。卒業式に臨み、皆さんの胸の中には、北摂祭、修学旅行などの学校行事、気を抜けない日々の授業、暑い夏は汗を拭きながら、寒い冬はかじかむ手をさすりながら頑張った部活動など、様々な思い出がよみがえっているのではないのでしょうか。

しかし、この2年間は世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、本校においても皆さんが学校の中核となる2年生のときには、2か月間の臨時休業、北摂祭の中止、修学旅行の延期、国際交流行事や海外研修の中止など、教育活動に大きな制限がなされました。県総体も中止となり、部活動にも大きな影響が出ました。それだけではなく、社会では、生徒を学校に登校させることについてまで様々な意見が出るなど、高校生活を目一杯充実させるとは言い難い状況であったことは否めません。

本来、高校生活とは、たくさんの友人と出会い、切磋琢磨しながら多くの達成感・充実感とともに悩みや苦しみも経験する中で、心身ともに大きく、そして逞しく成長し、バランスのとれた文武両道の精神を身につけるものだと考えます。その機会が必ずしも十分ではなかったことは、皆さんを預かるわれわれ教職員一同、非常に残念で、心苦しく思っているところです。

しかし、そのような中でも、皆さんは限られた機会を精一杯充実したものにすべく考え、また実行してくれました。3年生になり、クラス替えからわずか10日余りで出発した修学旅行。ちょうど感染が拡大していく局面で実施が危ぶまれましたが、一人ひとりがこの時期に行事を実施する責任を自覚し、自らの行動を律し、感染の防止に努めてくれました。そのような中で実施した、全体レクやガタリンピックでの弾ける笑顔が強く印象に残っています。それまでは当たり前でできていたことが、コロナ禍で当たり前でなくなったからこそ、数少ない機会を一層大事に取り組むことができたのではないかと思います。

また、本校におけるリモート授業も、3年生からはじまりました。数人の生徒に対し、授業の様子を配信することから始まった取り組みは、現在では学級閉鎖が起きたときに、翌日から教室でのすべ

での授業をクラス全員に配信するまでになっています。これも、連絡事項の伝達を含め、最初に3年生で大きな問題なく実施できたことが、その後の流れを決定づけたことは間違いありません。コロナ禍でも学びを止めない、という目標に向けて先生方と皆さんが協力してくれた結果、本校は多くの経験値を得ることができました。

皆さんには、どのような状況下にあっても、そこから得られるものは必ずあるということ、これからの人生の中で自分を高めていく良き糧として、心にとどめておいていただきたく思います。

さて、これからの社会はどのようなものになるのでしょうか。国内では新型コロナウイルスはもちろん、超高齢化社会、グローバル化への対応などの課題が山積していますし、国外では情勢は非常に緊迫化しています。各国の利害は複雑に絡み合い、一筋縄ではいきません。

このような、予測困難で正解がない課題に対して向き合いながら、それでも私たち、特に将来を担う皆さんは未来を切り開いていかなければなりません。どうすればよいのでしょうか。

私は、そのキーワードは、本校の建学の精神「志 学を究め 己を修め とともに手を取り 明日をつくらん」にこそあると思います。

皆さんは本校で、多くの「学び」に触れました。「学び」は、皆さんが大海原のようなこの世界を進んでいくための推進力となります。そして、「学び」の理由、あるいは目的地を示すものが「志」です。

皆さんはこの3年間で、これからも前進するための学びの手法を身につけたと確信しています。今後、さらにその力に磨きをかけ、自らの「志」の実現に向けて取り組んでくれることを期待します。

最後になりましたが、保護者の皆様に一言申し上げます。お子様方には、入学以来のご努力が実を結び、卒業を迎えられたこと、まことにおめでとうございます。私たち教職員一同は、お子様方をお預かりして3年間、不十分な点もあったかとは思いますが、全力で教育にあたってまいりました。ここにいたるまでに賜りましたご理解、ご支援に対し、この場を借りて深く感謝申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ出発の時がきました。これから皆さんは自分自身が選んだ道へと歩みだすこととなります。しかし、この先、もしも皆さんが少し立ち止まってみたいと考えているときは、どうか北摂三田高校を訪れてください。かけがえのない3年間を過ごしたこの学校は、足を踏み入れれば高校生の「あの時」に戻れる、皆さんの母校です。

最後に、京セラの会長を務められた稲森和夫氏の言葉を皆さんにご紹介して結びといたします。

「人生とは、自分自身が脚本を書き、主役を演じるドラマだ。どのようなドラマを描くかは自分次第であり、心や考え方を高めることによって、運命を変えることができる。」

皆さんの未来に幸多かれと祈念し、私の式辞といたします。

令和4年3月2日

兵庫県立北摂三田高等学校長 吉野 浩司